

人工衛星搭載ハイパースペクトルセンサがとらえた

葛西臨海公園周辺（1）

データ収集：米国航空宇宙局（NASA）

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

2000年11月、米国航空宇宙局（NASA）によって地球観測衛星1号（EO-1：Earth Observing 1）が打ち上げられました。この衛星には242バンドにおよぶ波長帯域で地表面を観測できる「ハイパースペクトルセンサ（Hyperion）」が搭載されています。下図は、Hyperionがとらえた葛西臨海公園とディズニースターランド周辺の観測画像（地上分解能30m）です。観測波長帯が短いもの（左下部）から時計回りに主な画像を配置してみました。画像が全体的に暗くなっている観測波長帯域では、光が大気を透過する割合が低いことを意味します。中央の画像は、バンド28（630nm）、バンド47（824nm）、バンド23（579nm）のデータをそれぞれ「赤、緑、青」のプレーンに割り当ててカラー合成画像（ナチュラルカラー画像）を作成した例です。市街地と緑地の分布状態が明確に識別できることが判ります。10nm毎に観測されるHyperionデータは、電磁波の散乱分析や土地被覆の分析精度の向上に大きな期待が寄せられています。

